

無料公衆無線LAN環境整備促進

- 全国へのWi-Fiスポット拡大
- 共通シンボルマークの導入
- 利用開始手続きの簡素化・一元化

多言語音声翻訳対応の拡充

- 空港等日本の玄関口での活用
- 医療、交通、観光等の対応拡充

デジタルサイネージの相互運用

- 災害時等緊急情報の一斉配信
- スマホ連携で個別最適情報入手

放送コンテンツの海外展開

- 日本の魅力を継続的に海外発信
- 観光需要の増加や地域製品の販路開拓といった波及効果、日本に対するイメージ向上

<2020年でのショーケース> ～社会全体のICT化が実現～

接続の壁をなくす

- 外国人の導線における主要な観光・防災拠点にWi-Fiスポットを整備
- Wi-Fi利用認証一元化により、全国で面倒な手続きなく利用可能

言葉の壁をなくす

- 高精度に翻訳可能な言語を10言語に拡大
- 旅行会話だけでなく医療、生活分野等で実用レベルの翻訳を実現

情報の壁をなくす

- デジタルサイネージにより高度なエリアマネジメント、個人に最適な情報取得が可能。
- 緊急災害時のスムーズな誘導が可能。
- 全国・世界で4K・8Kパブリックビューイングの実現

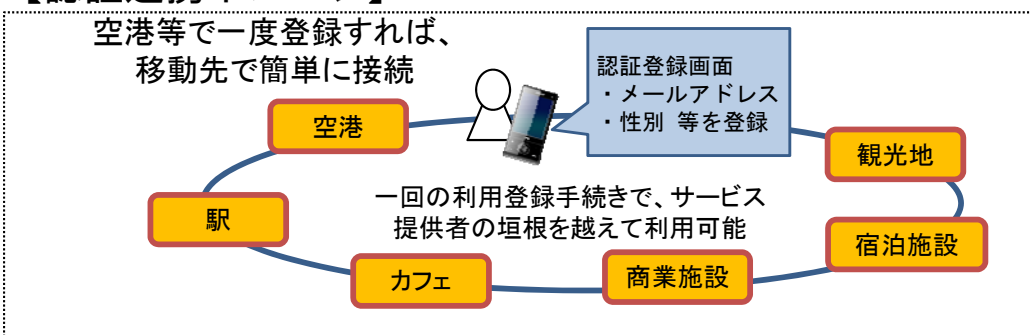
日本のプレゼンス向上

- 産官のオールジャパン体制で日本の魅力を発信
- 放送コンテンツ海外輸出額の増加(2018年に現在の3倍超を目指す)
- 訪日外国人観光客の増加(2020年に2,000万人を目指す)
- 日本の食品輸出額の増加(2020年に1兆円を目指す)

無料公衆無線LAN環境の整備の促進

- 2020年までに外国人の導線における主要な観光・防災拠点にWi-Fiスポットを整備するため、自治体への支援を実施。
- 訪日外国人旅行者が快適に利用できる無料公衆無線LAN環境の整備を促進するため、総務省、観光庁が事務局となり、駅、空港等のエリアオーナー、自治体、通信事業者等から構成される協議会（無料公衆無線LAN整備促進協議会）を昨年8月に設立。本協議会を通して無料公衆無線LANの整備促進、共通シンボルマークの導入、利用可能場所等の周知、利用開始手続きの簡素化・一元化等を推進。

【認証連携イメージ】

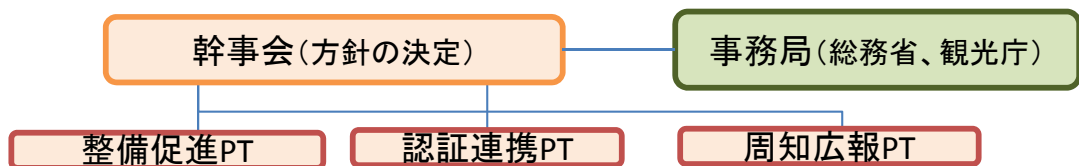


【整備イメージ】



【推進体制】

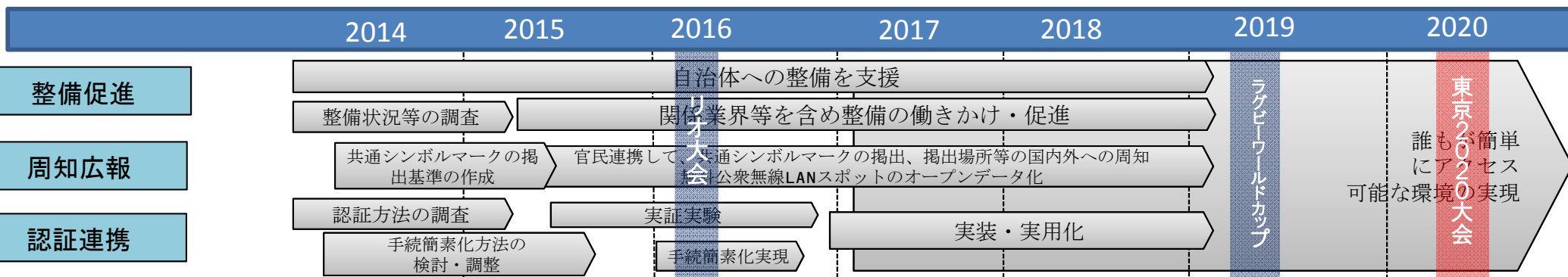
無料公衆無線LAN整備促進協議会



【整備場所】

全国の交通・商業施設、観光、防災拠点等

【スケジュール案】



成田国際空港

- ターミナル館内の巡回案内スタッフが「iPad」を活用して、最新のフライト情報や忘れ物の情報等、他、空港内の店舗、サービス施設等を写真や地図を用いて案内。
- さらに、多言語音声翻訳アプリ「NariTra」を活用し、巡回案内スタッフが、中国や韓国からの来客にも母国語で案内を行っている。



成田国際空港のホームページでアプリを紹介
Google PlayやApp storeでダウンロード可能

【出典】成田国際空港ホームページ

京浜急行電鉄

- 2014年3月の羽田空港国際線発着枠の拡大等に伴い、同年7月から品川駅と羽田空港国際線ターミナル駅に「VoiceTra4U」を試験導入。
- 主に改札や忘れ物センターで片言での対応が困難な場合、羽田空港国際線ターミナル駅、京急ツーリストインフォメーションセンターで英・中・韓以外の対応が必要となった場合等においてVoiceTra4Uを活用している。



品川駅(改札)



羽田空港国際線ターミナル駅(改札、京急ツーリストインフォメーションセンター)



【出典】京浜急行電鉄より提供

デジタルサイネージの機能の拡大

デジタルサイネージは公共空間等に数多く設置され、非常に有用な総合情報通信端末として進化。
2020年には、下記のような利用シーンが実現。

【災害情報やオリンピック等情報などの一斉配信】

災害等の緊急時における災害情報、避難所情報等や、オリンピック・パラリンピックの情報等をデジタルサイネージから一斉配信

【多言語対応】

訪日外国人に対して、観光情報や競技情報、災害情報等を多言語で情報提供。サイネージにかざしスマホタブレットに自国語で表示。

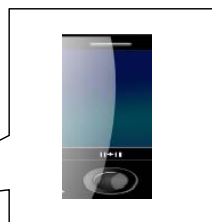
【個人に最適な双方向サービス】

スマートフォン等の他のデバイスとの連携等により、個人に最適な双方向による情報提供、Wi-Fiスポットとしての活用、美術館や博物館、レストラン等のクーポンの入手等

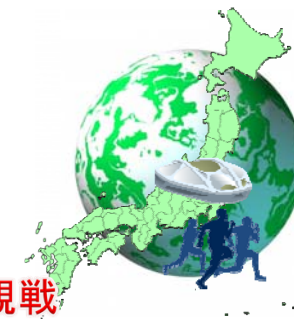
【全国・世界で4K・8Kパブリックビューイングの実現】

開催地東京のみならず、地方、海外においても、オリンピック・パラリンピックの感動を共有できる場の提供

【実現イメージ】



8K大画面でスポーツ観戦



【整備場所】
東京都ほか全国

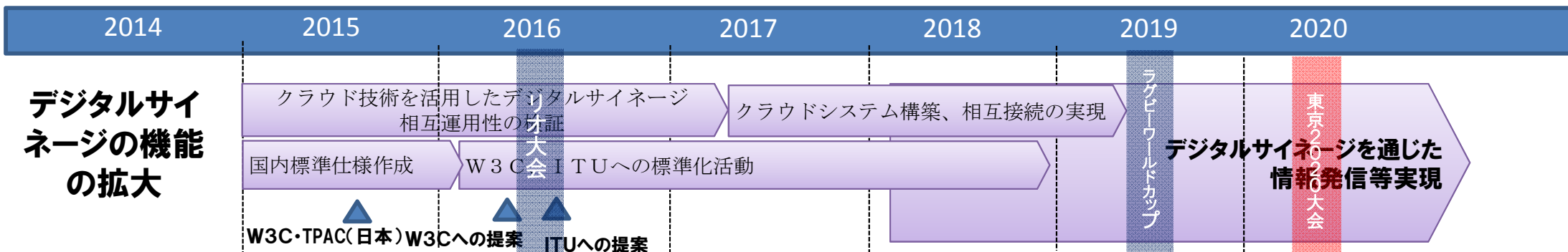


大規模公園等での
パブリックビューイング

【推進体制】

標準化: デジタルサイネージコンソーシアム、国、設置: 東京都、民間企業等

【スケジュール案】



放送コンテンツの海外展開

放送コンテンツ海外展開の目指すもの

放送コンテンツ の海外展開

様々な分野への波及

- ・外国人観光客誘致
- ・地域活性化への貢献
- ・流通、ファッション、食、音楽等の発信

【これまでの取組の例】

◆「Welcome To The Railworld 日本編」(マレーシア)

- 日テレ・マレーシアMediaPrimaによる共同製作。日本各地の観光地や食・文化を、マレーシア人タレントが鉄道を通じて紹介。
- 取材地選定等で観光庁・JNTOからの協力。また、高速鉄道のPRを目的として東北新幹線取材。
- 2015年1月から毎週木曜21:30～22:00に放送(全10話)。



番組で取材する新幹線



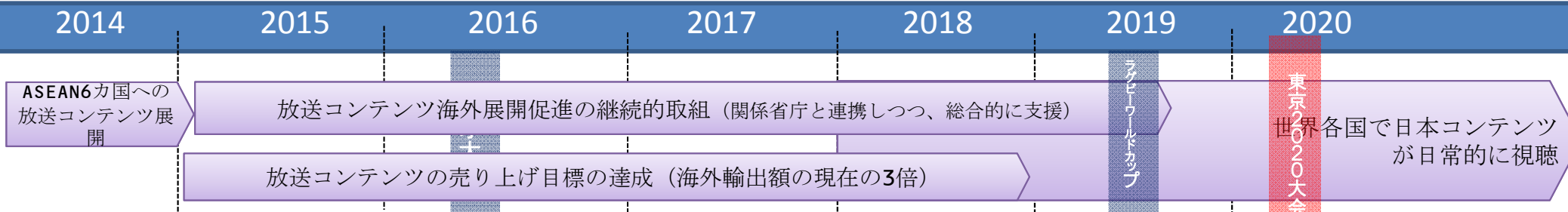
沖縄(玉泉洞)での取材の様子

It doesn't look like a dragon...but it looks like a dragon egg.

【推進体制】

(一社)放送コンテンツ海外展開促進機構を中心に、放送局や権利者団体が協力しつつ推進。

【スケジュール案】



国家戦略への貢献

「ビジット・ジャパン戦略」



「クール・ジャパン戦略」

「地方の創生」

【今後の取組】

- 関係省庁(総務省・経産省・外務省・観光庁)が密接に連携しながら、コンテンツ製作・現地化(字幕付与等)から海外での発信・プロモーション活動まで、一体的、総合的かつ切れ目なく支援を実施。

【展開先】

- ・当面はASEANをはじめとするアジア等の新興国
- ・2020年に向けて世界各国